

| | |
|---------------------------------|-------------|
| 講義コード Course code | 022002102 |
| 講義名 Course title(Japanese) | 社会学 B |
| 英文講義名 Course title (English) | Sociology B |
| (副題) Course subtitle | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 Semester(s) | 後期 |
| 講義区分 Type | 講義 |
| 単位数 Credit hour(s) | 2 |
| 時間 Total hours | 0.00 |
| 代表曜日 Day | 金曜日 |
| 時限 Period | 4 時限 |

ナンバリングコード

| | |
|------|-------------|
| 所属名称 | ナンバリングコード |
| | C2-SOC102LJ |

担当教員
Lecturer(s)

| 職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time) | 担当教員名 Lecturer(s) | 実務経験の有無 Hands-on experience | 所属学部 Department |
|--|----------------------|--------------------------------|--------------------|
| 専任教員 | 川上 代里子 | | 経営学科 |

授業の内容（主題）
Course description

「社会学とは何か」と考えたとき、社会学は家族、集団、組織など人間関係を切り口として社会関係を分析していく学問であるといえるだろう。しかしその研究対象は幅広く、視点や方法も多様であるため、社会学の全体像を短期間で把握するのは難しい。そのため本講義では、我々の身近な問題を取り上げ、そのような問題を社会学がこれまでどのように扱ってきたか考察することから始める。みなさんには、ただ単に社会学についての知識を詰め込むのではなく、社会的にももの考える能力、つまり自分の身近に起こっている問題を、個々の問題として終わらせず、ものごとをもっと広い脈絡の中でとらえることができるようになってほしい。

到達目標
Course objectives

社会的にももの考える能力の前提として、基本的な社会学用語を習得することを目標とする。
また各回のテーマに関して、研究の流れにそって主要な理論を理解していくことを目標とする。

ディプロマポリシーとの関連

Accordance with diploma policy

◎：非常に強く関連する

○：強く関連する

△：関連する

空欄：該当しない

| | |
|--|---|
| | |
| ①二十一世紀の社会の発展と地域の産業、経済、文化等の活性化に貢献できる能力 | △ |
| ②激変する国際社会の中にあつて、十分な異文化理解のもとに、長期的で広い視野に立つて将来を展望し、行動できる能力 | △ |
| ③本格的な高度情報社会において、最新の情報を的確に入手し、それを有効に活用したうえで効果的に情報を発信できる能力 | |
| ④自らの判断、努力と責任に基づいて、社会に積極的に貢献できる豊かな教養と柔軟な思考力 | △ |

授業計画表

Course plan

| 回 Class sessions | 内容 Topics | 予習・復習 Expected work outside of class |
|------------------------|---|---|
| 第1回 | イントロダクション 社会とは何か、社会学とは何か 社会学Aの内容の復習 | 復習：講義での注意事項を確認し、学んだことを復習する。(120分) |
| 第2回 | 自我の社会学(1) フロイト | 予習：無意識というキーワードについて調べておく。(120分) 復習：フロイトが主張する人間が自分の心を守ろうとする防衛機制について、自分に当てはまる経験はないか考えてみる。(120分) |
| 第3回 | 自我の社会学(2) アイデンティティとパーソナリティ | 予習：アイデンティティというキーワードについて調べておく。(120分) 復習：講義の内容を踏まえ、自分もっている自己イメージ、自分はこういう人間だというイメージはどのようなものか考えてみる。(120分) |
| 第4回 | 自我の社会学(3) 自我の構造 | 予習：自我というキーワードについて調べておく。(120分) 復習：今の自分の性格を考え、社会や周りの環境から影響を受けている部分があるかどうか考える。そのために講義の内容について、もう一度確認する。(120分) |
| 第5回 | 自我の社会学(4) 社会的地位と役割 | 予習：地位と役割というキーワードについて調べておく。(120分) 復習：普段の生活における相互行為で自分が遂行している役割を挙げてみる。その役割に伴う役割期待についても考える。そのために講義の内容について、もう一度確認する。(120分) |
| 第6回 | 社会化のしくみ | 予習：社会化というキーワードについて調べておく。(120分) 復習：社会的存在としての自分、社会における自分の位置づけについて考える。そのために講義の内容について、もう一度確認する。(120分) |

| | | |
|------|---------------------------|--|
| 第7回 | 家族の諸形態、家族の機能と構造 | 予習：核家族というキーワードについて調べておく。(120分) 復習：自分の家族を事例として、家族の形態や機能を挙げてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する。(120分) |
| 第8回 | 家族の変化(1) 近代家族と子どもの誕生 | 予習：近代家族というキーワードについて調べておく。(120分) 復習：自分の子供時代を振り返り、成長するにしたがって周囲の自分に対する接し方などがどのように変化したか考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する。(120分) |
| 第9回 | 家族の変化(2) フェミニズムとジェンダー | 予習：ジェンダーというキーワードについて調べておく。(120分) 復習：家事分担の夫と妻の間の不公平感について、解消の方法を考えてみる。(120分) |
| 第10回 | コミュニティと人口減少社会—少子高齢化問題を考える | 予習：少子高齢化というキーワードについて調べておく。(120分) 復習：少子高齢化問題について、自分なりに対策を考える。そのために講義の内容について、もう一度確認する。(120分) |
| 第11回 | 日本のイエとムラ | 予習：日本の家(イエ)制度について調べておく。(120分) 復習：日本のイエやムラについて、現在にもその名残があるか具体例を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する。(120分) |
| 第12回 | 都市とはなにか | 予習：都市であるための条件とはなにか、都市という言葉の辞書で調べておく。(120分) 復習：農村と都市を比較し、自分はどちらに住みたいか考える。そのために講義の内容について、もう一度確認する。(120分) |
| 第13回 | 都市の暮らしを考える | 予習：アーバンイズムというキーワードについて調べておく。(120分) 復習：都市の暮らしは孤独か? 都市の人間関係に焦点をあてて考える。そのために講義の内容について、もう一度確認する。(120分) |
| 第14回 | 社会調査 社会調査法の歴史と手法 | 予習：社会調査における標本というキーワードについて調べておく。(120分) 復習：これまでに自分が受けたことのあるアンケートなどの調査を振り返り、それがどのようなものか考える。そのために講義の内容についてもう一度確認する。(120分) |
| 第15回 | まとめ | 予習：第1回～14回の授業の内容を確認しておく。(120分) 復習：講義で学んだことを復習する。(120分) |

授業計画コメント

Course outline

学んだ知識を定着させるために、必要に応じて授業内で練習問題に取り組む。また講義の内容を参考にして、特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。

授業の進め方

Session plan

教員から提示する資料に基づく講義形式の授業である。資料は授業で随時配布する。テーマごとに練習問題に取り組み、教員が答え合わせと解説を行う。また、講義の内容を参考にして、

特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。授業の進捗状況により、回を入れ替えることがある。

アクティブラーニング

Active learning

基本的には講義形式が中心の授業となるが、授業内容についての問いかけを通じて、その問いの答えを考えながら受講することで主体的な学びを促していく。授業内容についての練習問題に取り組み、教員が答え合わせと解説を行う。また、講義の内容を参考にして、特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。

授業時間外の学修（予習・復習等）

Preparation and review outside classroom hours

特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いてもらうため、簡単な下調べを課題として課すことがある。また、テーマごとに練習問題に取り組む課題を課す。

教科書等

Textbooks and materials

| | タイトル Title | 著者名 Author(s) | 出版社 Publisher | 出版年 Year of Publication | 価格 Price | ISBN |
|---|---------------|------------------|------------------|----------------------------|-------------|------|
| 1 | 使用しない | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | | | | | | |
| 5 | | | | | | |

(必ず購入すべきもの)

Materials required for sessions

特になし

参考図書

Reference book(s)

『社会学』 アンソニー・ギデنز著 而立書房

『現代人の社会学・入門—グローバル化時代の生活世界』 西原和久・油井清光編 有斐閣

『スタートライン 現代社会の諸相』 久門道利等著 弘文堂

* これ以外にも、各回のテーマに沿った文献を紹介することがある。

成績評価方法および評価基準

Evaluation criteria

| | 定期試験 Tests | 授業内小試験 In-class quizzes | レポート・課題 Reports/Assignments | 受講態度 Class Attitude |
|---------------------------|---------------|----------------------------|--------------------------------|------------------------|
| 評価比率% Evaluation ratio | 90% | 0% | 5% | 5% |

成績評価の方法に関する注意点

Assessment criteria

レポート・課題および受講態度は、授業内で指示した作業(特定のテーマについて自分の意見を書く)の提出状況などを評価する。

課題のフィードバック

Feedback

授業で取り組んだ練習問題については、答え合わせと解説を行う。

授業で提示する問いに対する回答については、何らかのかたちでその結果を発表し、受講者の考え方の傾向を全員で共有する。

学生へのメッセージ（履修上の心得）**Message to students (class guidelines)**

授業内容に関する問いを提示し、問に対する自分なりの回答を書いて提出してもらうことがある。意見を書く際には「どのような意見を述べたか」によって評価が決まることはないので安心して欲しい。テーマとなる問題について、自分なりに考え、意見をまとめてそれを書くという作業をすること自体が大切である。まずは簡単で良いので自分なりの意見を持ち、それをフィードバックして欲しい。ただ出席するだけでなく、提示した課題に取り組み積極的に授業に参加してもらいたい。

科目のレベル、前提科目など**Level / Prerequisites**

前提科目：社会学 A を履修しているとより理解が深まるので望ましいが、そうでない場合も考慮した補足説明を行っていくつもりである。

キーワード**Keyword(s)**

社会学